

連載
第12回
(最終回)

教師としての視野を広げる! 世界の日本人学校 マンスリーレポート

グローバルな現代社会。教室には、海外につながる子供たちも少なくありません!
教師としての国際感覚を磨くため、海外の日本人学校の様子を毎月レポートします。

在外教育施設について

海外で日本の教育を受けることのできる教育施設で、「日本人学校」「補習授業校」等があります。現在、保護者の勤務の都合等で海外に滞在している日本の子どもたちは約8万3000人。このうち、約4万1000人が在外教育施設で学んでいます。

1 赴任したきっかけ

青年海外協力隊員として、現地の小学校でボランティア活動をしていたザンビアから帰国した後の進路を考えた時に、在外の日本人学校で勤務していた知人の話を思い出したことがきっかけです。さまざまなバックグラウンドをもった教員や児童生徒に出会えることが魅力だという話に興味を沸かしました。また日本での社会人経験やザンビアでのボランティア経験を還元できる場所は在外の日本人学校だと思ったため、すぐに応募を決めました。また、中国の中でもIT産業やハードウェアの分野において急速な成長を遂げている深セン市がどのような場所なのかを自分の目で実際に見てみたいという興味もあり、深セン日本人学校を志望しました。



新校舎

2 学校の概要

深セン日本人学校は現在小学部約250名、中学部約40名の児童生徒が在籍する中規模校です。児童生徒数の増加に伴い、校舎の移動を経て、今年で創立11年目となります。学校は市の中心部にあり、ほとんどの子が学校の近くに住んでいます。本校の校歌はなんと、歌手の大黒摩季さんの作詞作曲によるもので、深セン市の街の様子や本校の児童生徒の様子、大黒さんから深センの子どもたちへの願いなどが込められています。創立時よりたくさんの子に歌い継がれており、子どもたちの明るく元気に歌うこの校歌を聞くと、彼らの熱い思いを感じ、いつも涙ぐんでしまいます。また本年度より児童生徒会が発足し、子どもたち自身でイベントを企画し、全校の児童生徒が関わり合える取り組みを行っています。



創立10周年の全校記念写真

深セン日本人学校

太田 孝幸(おおた たかゆき)

所在国:中国

プロフィール(赴任年度、担当等):2017年度4月赴任。小学部全学年の外国語活動・外国語と中学部1年の英語を担当。



海外で働く 学校採用教員Q&A

Q21 在外教育施設で勤務する魅力って何?

A21 帰国した元学校採用教員の先生方からいただいたご意見の一部です

- ・在外教育施設は日本全国から様々なキャリアを持った優秀な教員が集まっており、いろいろな指導法を学ぶことができた。
- ・日本や世界各地から来る子どもや、その国で生まれ育った子どもなど、様々なバックボーンを持った子どもたちが一緒に過ごしている。
- ・日本と異なる文化や学校環境の中で、創意工夫しながら授業や教育活動に取り組むことで教員としてのスキルアップに繋がった。
- ・海外での生活を通じて、その国や日本に対する価値観が変わった。
- ・グローバルな視野を持つことができた。

3 この国の学校ならではの!という特徴は何ですか?

PTAの保護者の方が企画してくださる芸術鑑賞会では、中国の伝統文化である変面ショーや伝統楽器の二胡の演奏、また水墨画や書道の鑑賞など、中国ならではの文化に触れることができます。また、総合的な学習の授業で実際に獅子舞の中に入って獅子を動かす体験をした学年もありました。また、学年をまたいだ縦割り班の活動「フレンズ活動」で、学校の近くにある深セン湾公園へ遠足に行きます。高いオフィスビルが多く立ち並ぶ深セン市の中でも緑の多い公園で、植物や昆虫、小動物などを観察したり、思いっきり体を動かしたりと、異学年交流を積極的にしています。都心と自然が融合した深センならではの活動です。



芸術鑑賞会の変面ショー (PTA主催)



フレンズ遠足! スナックタイム!

4 学校で勤務した感想

中学部ではソーラン節が毎年踊り継がれています。また子どもたち自身が遊びやゲームを考えて行う「夏祭り」やPTA主催の「秋祭り」、年明けの餅つき大会など、日本の慣習や文化に触れる機会が思ったよりも多いという印象です。私も含めた教職員や子どもたちが海外で生活しながらも日本人としてのアイデンティティを忘れずに過ごすことができ、とても嬉しく思います。日本各地から集まった教員のプロフェッショナルたちと日々切磋琢磨しながら勤務するこの環境も、日本の教育現場以上に刺激的です。日本のメディアでは中国に関してマイナスな面が取り上げられることが多いです。しかし実際に中国で生活してみて、ポジティブな面が多いことに気付かされます。日本を出て、その土地で生活するからこそ分かることもたくさんあるのだと身をもって感じる日々です。



全校で取り組む体力アップ運動

5 教え子が帰国したとき、日本の先生方に伝えたい伝達事項は何ですか?

生まれた時から中国で生活している子はたくさんいます。また、国際結婚家庭で育った子どもも少なくないです。そのため、これまで「良い」「正しい」「当たり前」とされていたことが、日本ではそうはいかないケースもあるかと思っています。一度身についた習慣はすぐには変えられないものです。幼少期からの習慣であればなおさら変えられないでしょう。そのため、その子どもの行いが日本の文化や慣習とは異なるというだけで、「間違い」として扱わないでほしいです。それを彼らの個性として認めてあげつつ、新しいことを身に付けさせるというポジティブな接し方をしていただければと思います。



現地校との交流会(中学部)